

とってもやさしい アポイ岳ジオパーク講座 【第9回】

ジオサイトめぐり (見どころ) その6



鳥居の奥の階段の先には
幌満川稲荷神社

■幌満峡エリア：【A6】幌満川稲荷神社

国道から幌満峡へ5kmほど進んだところ、第3発電所の少し上流側の林道沿いに赤い鳥居があります。その奥の急な石段を登りつめた先に幌満川稲荷神社があります。

ここは、京都伏見の稲荷神社からぶんし分祀した神社で、幌満峡に水力発電所を建設した日本電燈株式会社（現日本電工でんとう）とその従業員の寄進により、昭和11年に建立されたものです。鳥居のすぐ隣の建物は日高地方最初の自前発電所であった第1発電所（昭和9年建設、昭和44年まで稼働）。鳥居のすぐ上流側の林道沿いに残る階段は、日本電工の祖である手塚信吉氏の別荘がここにあった名残り。

このジオサイトは、近代様似発展の礎を築いた人々の息吹を感じるこのことのできる場所です。

■アポイ岳エリア：【B8】アポイ～吉田間 【B9】吉田岳 【B10】ピンネシリ

様子町民なら、ほとんどの方が一度はアポイ岳に登ったことがあることでしょう。でも、アポイ岳の山頂からさらに北に向かって続く登山道に足を向ける人はそう多くはないかも知れません。

アポイ岳から隣の吉田岳までは片道小一時間で行くことができますが、2つの山を結ぶかんらん岩の岩場が続く登山道は、アポイ周辺で最も花が咲き誇る隠れた人気スポットです。さらに北には、アポイ岳と対をなす男山を意味する名前のピンネシリがあります。アポイ岳山頂とは異なり、ピンネシリの頂上は非常に展望が良いので、天気の良い日には太平洋から日高山脈までの360度の絶景をたんのう堪能できます。みなさん、アポイだけでなく、たまにはこれらの山にも足を伸ばしてみませんか？



アポイ岳から望む
吉田岳とピンネシリ



ピンネシリの名前は、ピン（夫）・ネ（のよ）うな（シリ）山（山）、つまり男山という意味のアイヌ語なんだけど、昔はアポイピンネシリと呼ばれてたって知ってた？



えっ、アポイ？じゃあアポイ岳はなんて呼ばれてたの？



アポイはアポイマチネシリと呼ばれていて、マチ（妻）・ネ（のよ）うな（シリ）山、つまり女山。そう、どちらもアポイがつく、夫婦の山なの。いつの頃からか、それが略されて、今のようになっちゃったよね。



そう言われてみると、様子から見たピンネシリは雄大で、アポイ岳はしなやかに見えるような気が…。みんなも今度、二つの山を見比べてみてね。

▼アポイ岳ジオパークのホームページでは、様子の旬の情報をブログで発信中です！

http://www.apoi-geopark.jp/ 「アポイ岳ジオパーク」で検索！